



©藤岡幸夫

©山下一史

©出口大地

©尾高忠明

©尾高忠明

踊る4オケ 初登場の指揮者も

大阪の4大オーケストラが集結する大阪国際フェスティバルの看板企画「4オケ」はこの4月に12回目を迎える。今回は「踊る♪」をテーマに、各楽団が趣向を凝らしたログラムで共演する。

交響楽団。ラヴェルのバレエ組曲か
ワード、迫力ある「ダフニスとクロ
エ」第2組曲を聴かせる。

日本センチュリー交響楽団は、本

企画に初登場する鋭い指揮者、出

口大地を迎える。同楽団が團伊玖磨

角帽子」第2組曲を披露する。

続いては、山下一史が率いる大阪

モニー交響楽団。尾高忠明との安定

した演奏で、チャイコフスキーのバ

レエ音楽「白鳥の湖」から特別セレ

クションを届ける。

最後を飾るのは、大阪フィルハー

モニー交響楽団。尾高忠明との安定

した演奏で、チャイコフスキーのバ

レエ音楽「白鳥の湖」から特別セレ

クションを届ける。

最後を飾るのは、大阪フィルハー

モニー交響楽団。尾高忠明との安定

した演奏で、チャイコフスキーのバ

レエ音楽「白鳥の湖」から特別セレ

クションを届ける。

バレエ「シンデレラ」4歳からOK

「私の髪はなびかへんねん」記者会見で掛け合い

9月にある牧阿佐美バ
レエ団の「シンデレラ」

は、プロコフィエフの音
楽と古典的なバレエの様
式を使って子ども向けに
仕立てたもので、4歳か
ら入場できる。

ゲストで登場した芸人の
「海原はるか・かなた」とは
漫才風の掛け合いも。薄い頭
髪を吹く定番のギャグには、
「お見事やで」「私の髪は風

でなびかへん仕様やねん」と
応じて笑いをさらった。

デジタル版と記者
会見の動画はQRコ
ードから。

利亚もまた「生命」だった。
「誰もマリアがよみがえったとは思
わない。でも、ある種の錯覚は起き
る」。渋谷にとっての「個人的な死」
は、人間ではないマリアを通して「普
遍性」を帯び、生と死という分類のほ
うに言い聞かせるようにそう語った。

「死んだら終わりの一方ではない、
新たな視座が生まれるんじやないか。
生と死が反復すると示せれば、それは
可能性であり、希望でしよう」。自ら
の妻の死をゆづくりと理解して
いたように、様々な形の「死」があ
り、共有される記憶という形の「生」
に動かすこのロボットは、故人に似せ
ん。人型の上半身とチューブが絡んだ
ような下半身で、53もの関節を滑らか
に動かすこのロボットは、故人に似せ
た顔を持ち、その経験を搭載AI（人
工知能）に読み込ませた存在だ。

舞台でマリアは、小説家や哲学者の
言葉に影響を受けた歌詞を歌う。オー
ケストラに、渋谷の手によるピアノと
電子音が重なり、高野山から招いた僧
侶が唱える「声明」も絡む。特設スク
リーンには幻想的な映像が流れた。
人間とテクノロジー、東洋と西洋、
伝統と革新という要素は、ぶつかり合
わず、溶け合っていく。今作の骨格とな
った前作「MIRROR」を発表し
た22年はコロナ禍やロシアによるウク
ライナ侵攻の勃発と重なる。曲じみに
「世界の終わりとその後」を表現しな
がら、あまりに「破壊的な現実」が、
渋谷を調和の追求へと向かわせた。
そして今作では、新たに迎えたマリ
アと共に、生と死の境界をもあいまい
にしようとする。



動的な主人公像を、田切
とで、言葉で表せないよ
うな感情を味わえる。そ
んな時間を作り出す、バ
レエという文化があるこ
とを感じほしい」と口
頭では「舞台を見る」

イングス、大和ハウス工業、竹中工務店

■渋谷慶一郎 アンドロイド・オペラ「MIRR OR」—Deconstruction and Rebirth—解 体と再生—

5月16日(土)午後2時▽渋谷慶一郎(作
曲、ピアノ、エレクトロニクス)、アンドロ
イド・マリア(ボーカル)、高野山声明、大
阪フィルハーモニー交響楽団(ゲストコンサ

ートマスター: 成田達輝)、今井慎太郎(ア
ンドロイド・プログラミング)、ジュスティ
ース・エマール(映像)▽S席1万2000円、
A席9000円ほか▽1月24日(土)午前10時一
般発売▽主催: 朝日新聞文化財団、朝日新聞
社、関西テレビ放送、びあ、フェスティバル
ホール▽協賛: 関電工、ダイキン工業、高砂
熱学工業、竹中工務店、西原衛生工業所

■牧阿佐美バレエ団 子供のためのバレエ「シ ンデレラ」

9月19日(土)午後2時開演▽3月一般発売▽
協賛: 朝日放送グループホールディングス、
ダイキン工業、大和ハウス工業、竹中工務店
▽チケットはフェスティバルホール(06-
6231・2221、<https://www.festivalhall.jp/>)、チケットぴあ(<https://t.pia.jp/>)
ほかで販売

◇会場: フェスティバルホール

(大阪・中之島)

◇主催: 朝日新聞文化財団、朝日新聞社、
フェスティバルホールほか

◇チケットはフェスティバルホール(06-
6231・2221、<https://www.festivalhall.jp/>)、チケットぴあ(<https://t.pia.jp/>)
ほかで販売

めぐる生と死 歌うマリアは希望

歌うアンドロイド(人型ロボット)を中心にオーケストラとピアノ、電子音に僧侶の声が絡み合う「アンドロイド・オペラ」が5月、大阪国際フェスティバルに初登場する。音楽家・渋谷慶一郎は最新作「『MIRROR』—Deconstruction and Rebirth—解体と再生—」で、あらゆる境界を搖るがそうと試みる。(富岡万葉)

渋谷慶一郎「アンドロイド・オペラ」5月16日

アンドロイド・マリア(右)と
渋谷慶一郎(写真・新津保建秀)

=東京都中央区、村上健撮影

しぶや・けいいちろう 1973年生まれ。電子音楽作品からピアノソロ、映画音楽まで活動は多岐にわたる。ボーカロイド「初音ミク」が主演する人間不在のオペラを2012年に発表して以来、人型ロボットを扱った世界でも珍しいアンドロイド・オペラの制作を続けてきた。前作「MIRROR」はドバイ万博やパリ・シャトレ座でも上演された。

言葉に影響を受けた歌詞を歌う。オーケストラに、渋谷の手によるピアノと電子音が重なり、高野山から招いた僧侶が唱える「声明」も絡む。特設スク

リーンには幻想的な映像が流れた。
人間とテクノロジー、東洋と西洋、
伝統と革新という要素は、ぶつかり合
わず、溶け合っていく。今作の骨格とな
った前作「MIRROR」を発表し

た22年はコロナ禍やロシアによるウク
ライナ侵攻の勃発と重なる。曲じみに
「世界の終わりとその後」を表現しな

がら、あまりに「破壊的な現実」が、
渋谷を調和の追求へと向かわせた。

そして今作では、新たに迎えたマリ
アと共に、生と死の境界をもあいまい
にしようとする。

アンドロイドの表現力を高めようと作られた
一体で、開発に携わった渋谷にとって
妻に似せることはアイデアの一つに過ぎ
なかつたという。だが完成した姿を
見て思い浮かんだのは「死はひとつで
はない」という言葉だった。

マリアは前作に登場した別のアンド
ロイドが死んでしまったことを経て、
妻に似せることはアイデアの一つに過ぎ
なかつたという。だが完成した姿を

見て思い浮かんだのは「死はひとつで
はない」という言葉だった。

ロイドの表現力を高めようと作られた
一体で、開発に携わった渋谷にとって
妻に似せることはアイデアの一つに過ぎ
なかつたという。だが完成した姿を

見て思い浮かんだのは「死はひとつで
はない」という言葉だった。

妻に似せることはアイデアの一つに過ぎ
なかつたという。だが完成した姿を

見て思い浮かんだのは「死はひとつで
はない」という言葉だった。

妻に似せることはアイデアの一つに過ぎ
なかつたという。だが完成した姿を

見て思い浮かんだのは「死はひとつで
はない」という言葉だった。

妻に似せることはアイデアの一つに過ぎ
なかつたという。だが完成した姿を

見て思い浮かんだのは「死はひとつで
はない」という言葉だった。